



# 生徒の参加 きっかけをつくって

今回の国際物理オリンピック・日本大会で、本校の今村晃太郎君が金メダルを獲得したときには大きな喜びを感じるとともに、改めて生徒の成長のすごさというものを感じることができました。

元々、今村君は理数教科について非常に拔きん出た力を持っていました。保護者の方から「難しい問題にどんな取り組みさせてもらえないか」という相談を受け、いろいろ考えた結果、普通の教科書や参考書を勉強するだけでは出合っことができないような問題を一緒に取り組んでみようと思うようになりました。そして行き着いたのが数学オリンピックの問題でした。

その当時、今村君はまだ中学3年生でしたので、問題に取り掛かる上で最低限必要な

知識を持っていない時にはそれを事前に伝えた上で、他の生徒と一緒に問題に取り組みせていました。

それが一つのきっかけになり、数学オリンピックに2回ほど参加しました。ただ本人はその結果に満足できなかったように、その後、物理オリ

ンピックに参加することを決めた。最終的に今回の金メダルの獲得に至りました。

今回、こういった貴重な機会を持たせていただき、特に感じたことは、最初のきっかけは何でもいいのではないかと。私がたまたま数学の教員だったため、数



日本開催の国際物理オリンピックに出場した今村晃太郎さん（右）。金メダルを獲得した

学からスタートしましたが、まず科学オリンピックの存在を知ってもらい、活動できる時間を確保してあげれば、面白いと感じた生徒は精神的に動き出します。つまり、教員が生徒にすることで最も大切なことは、いかにきっかけをつくってあげるかということではないかと思えます。

また、国際物理オリンピック参加後に今村君と話していた時、「留学や、英語でのコミュニケーションが大切だと実感した」と言っておりました。こういったグローバルな視野が自然に身に付いたという意味でも、本当に貴重な経験になったということを痛切に感じることができました。

最後になりますが、今回さまざまな形でサポートしていただいた方々には感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました。

（高畑雅史・大手前丸亀中学・高校教諭）